

1 基本理念

子どもも教師も幸せに学べる学校
～希望の登校、満足の下校～

「やってみよう！」 「自分らしく！」 「なんとかなる！」 「ありがとう！」

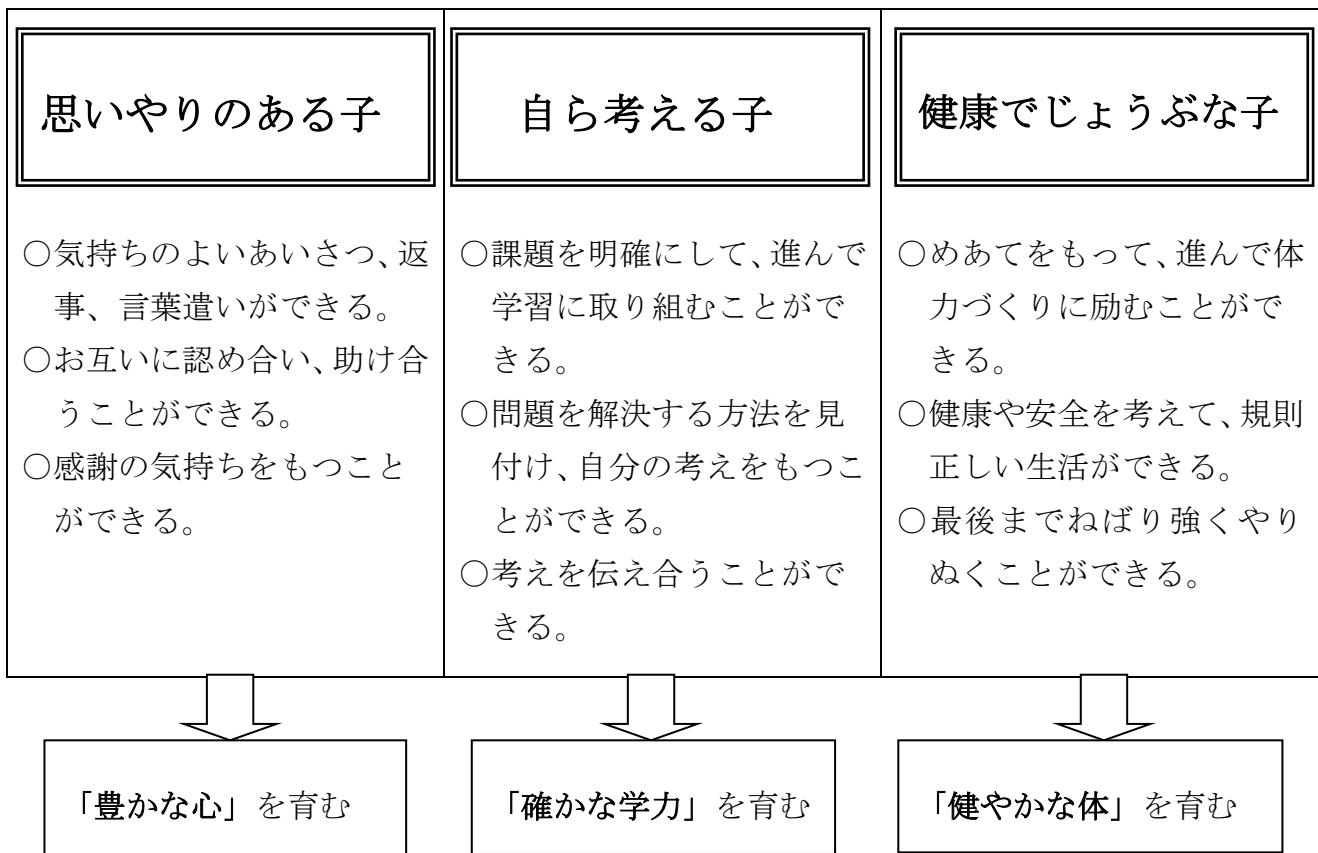
- (1) 一人一人が、自己有用感を感じ、主体性を發揮できる学校
- (2) 「チーム共興」として、組織的に教育活動を展開できる学校
- (3) 安心・安全で、子ども、保護者、地域から信頼される学校

2 教育目標

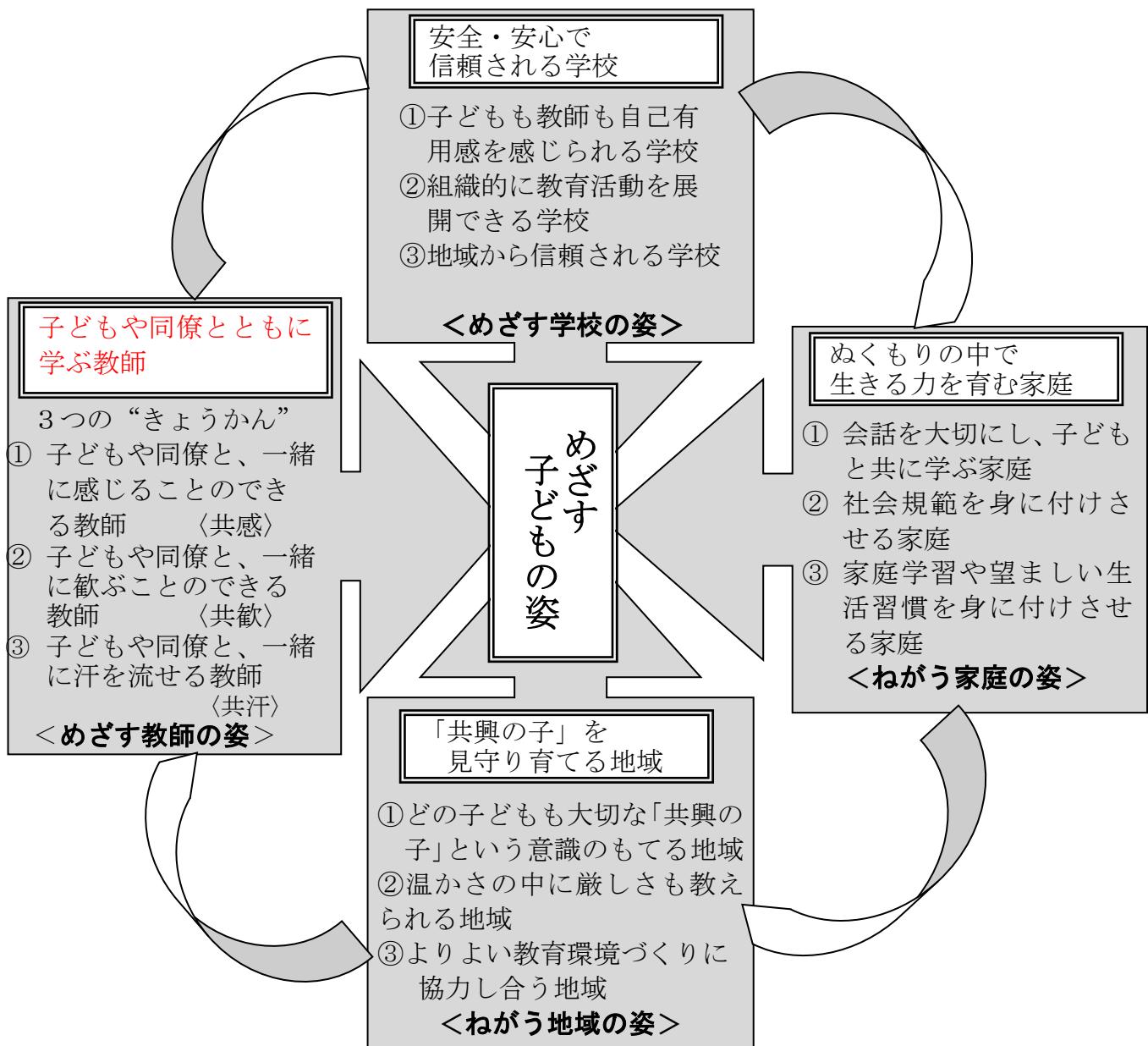
やさしく かしこく たくましい子の育成

3 具体目標

- (1) めざす子どもの姿



(2) めざす全体構造 〈地域とともにある学校づくり〉



4 経営の重点と具体策

(1) 「豊かな心」を育む

○道徳教育の充実

- ・道徳教育推進教師を中心に授業力向上を図る。
 - * ワンポイント研修の充実
 - * 「映像教材」・「校内資料」の整備と活用
 - ・道徳の授業公開を推進する。（7月学校公開日に実施）

○交流活動の推進

- ・交流活動を通して、思いやりの心や社会性を育成する。
 - * 異学年交流活動 ・グリーン活動 ・毎日の清掃活動 ・ロング昼休み
 - ・宿泊体験学習(4・5年生) ・縄跳び集会
 - * 地域住民との交流活動 ・地区民運動会 ・遊ぼう会（隔年）
 - ・米づくり(3・5年生) ・避難訓練 ・節分祭(5年生) ・町探検(2年生)
 - * 関係団体との交流活動 ・保育園との交流(1・2年生) ・車椅子体験(6年生)
 - ・特別支援学校との交流(5年生)

○読書活動の推進

- ・読書に進んで親しむことができる環境作り

- * 「読書賞」の授与
- * 「朝の読書」「読み聞かせ」「家読」の充実
- * 八日市場図書館との連携（配本の活用）
- * 図書室の整備
- * 図書委員会の活動の充実
- ・読書後のアウトプット
 - * 内容を人に話す。 * 人に勧める。 * 感想や気付きを記録する。

(2) 「確かな学力」を育む

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
 - ・問題文から、自ら課題を見出す力の育成
 - * 問題文をイメージ化できるようにする工夫
 - * 言葉を知り、使える言葉として蓄積するための言語環境の充実
 - ・朝のチャレンジタイム（火・水）の充実
 - * ちばっ子チャレンジ100の活用
- 主体的・対話的で深い学びの実現
 - ・自分の考えをもち、ともに学び合うことができる授業づくりをする。
 - * 「実践モデルプログラム」の活用
 - * 交流内容に適した交流方法の工夫
 - * 教師の言葉の少ない授業
- 基本的な学習規律・習慣の定着
 - ・学習規律の定着（「ぐー・ぺた・ぴん」で表現される姿勢）
 - ・学習習慣の定着（丁寧な文字、定規の活用、家庭学習）

(3) 「健やかな体」を育む

- 教科体育の充実と外遊びの奨励
 - ・「合同体育」「共興っ子の準備運動」を充実させる。
 - ・「体育ファイル」を効果的に活用する。
 - ・週1回、ロング昼休み、月1回縦割り遊びを設定する。
 - ・「遊・友スポーツランキングちば」に取り組む。
- 食に関する指導の充実
 - ・健康を育むために必要な食習慣の育成・定着を図る。
 - * 「よくかんで味わって食べる」「栄養のバランスを考えて食べる」「マナーを守り人と楽しく食べる」
 - * 市内栄養教諭と連携した食育の授業
 - * 給食委員会の活動の充実
- むし歯予防の推進
 - ・フッ化物洗口の実施
 - ・学校歯科医による歯磨き指導

(4) 積極的な生徒指導を意識した教育活動の充実

- 確かな児童理解と組織的対応の充実
 - ・全職員による共通理解・共通実践を基本とした一人一人の児童に対する一貫性のある組織的な指導・支援を行う。
 - * 「共興小学校の先生のスタンダード」「共興っ子のやくそく」の活用
 - * できるまで繰り返すことによる「凡事徹底」を図る。
 - * ケース会議の充実
 - ・生徒指導の機能を生かした授業を行う。
 - * 「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」の4つの視点をもって。
 - ・休み時間の児童の様子を把握する。
 - * 多角的・多面的な児童理解
- いじめ防止対策の推進
 - ・学校いじめ防止基本方針の見直しと共通理解・共通実践を行う。
 - ・いじめの予防・早期発見に努める。
 - * 「教育相談週間」の設定、相談箱の活用

- ・定期的なアンケート調査を行い、家庭との連携を図る。
*「もしもしアンケート」の活用

(5) 特別支援教育の充実

- 特別支援教育推進のための学校体制の整備と研修の充実
 - ・特別支援教育コーディネーターを中心とする校内委員会を充実させる。
 - ・関係機関（SC・特別支援アドバイザー・ロザリオ・福祉課等）と連携する。
- 一人一人の教育的ニーズに応じた教育内容や方法の工夫・充実
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用による合意形成及び合理的配慮の提供を行う。
 - ・インクルーシブ教育システムの推進に向けた障害のある児童との交流及び共同学習の充実を図る。

(6) 安全で開かれた学校づくりの推進

- 学校情報の積極的な発信
 - ・年5回以上「学校公開日」を開催する。
 - ・学校だより「さいかち原」の発行及び学区全戸への回覧を行う。
 - ・ホームページを活用し、教育活動を周知する。
 - ・学校運営協議会の開催により、地域、保護者、関係団体とともにある学校づくりを推進する。
- 防災教育の充実
 - ・「自分の命は自分で守る」という、自ら安全な行動ができる防災意識の定着を図る。
*ワンポイント避難訓練の実施
 - ・家庭・地域、関係機関と連携した災害に強い学校づくりを行う。
*危機管理マニュアルの見直し
*地域と連携した津波避難訓練の実施
- 清潔で季節感のある環境づくりの推進
 - ・児童の感性を育て、高めるような教室や廊下の掲示を行う。
 - ・校舎内外の環境整備を行う。

(7) 研究・修養の充実

- 教職員としての資質・能力の向上
 - ・先進校研究会に参加する。
 - ・校内授業交流により指導力の向上を図る。
 - ・研修会等の報告・伝達を実施する。
- モラールアップ委員会・研修会の活性化
 - ・モラールアップ委員会によるボトムアップ型・トップダウン型研修を実施する。
 - ・「共興小学校 アクション5」の推進による「不祥事ゼロ」を継続する。
- 「OJT指導者」を核とする若手教員の育成
 - ・業務に応じたOJTを行う。
*場面に応じた指導者の選任

(8) 働き方改革に向けた取組

- 会議、打合せの時間短縮を図る。
 - ・事前に会議資料を読み、内容を把握した上で参加する。
 - ・共通理解事項を事前にパソコンに入力し、画面で周知する。
 - ・職員室だよりを活用し、共通理解事項を紙面で周知する。
- 共有資料の整備・保管
 - ・資料（教材・教具など）の整備及び資料活用のための保管方法の工夫をする。
- スクラップ＆ビルトの視点での業務改善
 - ・業務の精選、業務内容の効率化・簡略化による積極的な業務改善を行う。
- 「かえる日」の設定
 - ・「定時退勤日」を各個人で月2回以上設定し、実践する。